

## 下水道工事でわかった植物園北遺跡

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



空から見た植物園北遺跡（北東から）

農地や宅地を縦横に区画する道路。下水道工事を機に、各々の道路の地下が調査された。左手奥の緑地は京都府立植物園。その向こう側を賀茂川が流れる。

1974年、京都市は、地下鉄烏丸線工事に先立って、工事計画範囲内にある埋蔵文化財の調査を行なうことを目的とした調査団、京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査会を設立しました。調査会では、地下鉄沿線内にある平安京跡や室町殿跡などの周知の遺跡内の調査計画を策定するとともに、遺跡が知られていない地域の分布調査もあらためて行なうことになりました。特に北大路通り以北の田畑地は新たな遺跡を発見できそうな有力な候補地でした。

「すぐき漬け」は京都の名産とし

て有名ですが、遺跡の分布調査の対象地となった北山通りの北側は、冬期にはすぐき菜畑が青々と広がる地域です。

すぐき菜の抜き取られた冬のあたる日、調査員たちは手分けして畝の間から数十片の土器のかけらを採集しました。その土器の中には灰釉陶器や土師器、須恵器などの平安時代の遺物に混じって、時代の不明な遺物も含まれていました。その成果から、京都府立植物園の北側一帯が遺物散布地として遺跡に認定されました。土器などの遺物が散布しているということは、

その付近に遺跡が存在する有力な根拠となるからです。

それから数年後の1979年、京都市下水道局は、植物園の北側一帯に公共下水道を敷設する工事を行なうことになりました。遺跡の実態が明らかになったのは整然と区画整理されたすぐき菜畑の中の道路が掘り返されたときでした。

下水道工事は、道路を幅1m、深さ2～3m程の掘削規模で何kmにもわたって連続して掘り起こしていく工事です。遺跡調査を担当する側にとっては、工事中の地層断面を観察し記録をとることに



立会調査の様子



植物園北遺跡の竪穴住居跡（古墳時代前期 1984年調査）

よって、遺跡の広がりや内容を知る絶好の機会となるものです。このような遺跡の調査法を立会調査たちあいといいます。

（財）京都市埋蔵文化財研究所では、工事の進行に合わせて立会調査を北山通りから北に向かって徐々に進めていきました。調査を開始してまもなく古墳時代前期の遺物を包含する小さな溝を発見したのをはじめとして、弥生時代から平安時代の遺構・遺物が次々と道路の下から見つかりました。

さらに、下水道工事に先立つ上下水道管工事の時には、掘削溝の断面に竪穴住居跡とみられる遺構を発見しました。下水道工事が行なわれる前にその地点を若干拡げて調査したところ、古墳時代前期の竪穴住居跡であることが判明しました。これ以後、当遺跡は単なる遺物散布地ではなく、弥生時代から平安時代にわたる集落跡として認識され、「植物園北遺跡」と名付けられました。

こういった一連の経過は、今ま

で遺跡範囲外だった地域の上下水道工事にともなう遺跡パトロールの必要性を促しました。案の定、この年（1979）の秋より始まった深泥池の南部など周知の遺跡の範囲外においても数戸の竪穴住居跡が発見され、以後上賀茂一帯がすべて調査の対象になりました。その結果、2年余りにわたって調査がなされ、縄文時代晩期から室町時代にわたる遺構が次々に発見されたのです。当初、数万㎡だった遺跡の範囲は、立会調査後には、実に100万㎡に拡大し、調査を実施した延べ距離は約25kmにもわたりました。

ところで、遺跡の主要な部分が、上賀茂神社付近を頂部とする鴨川扇状地の全域に点在することが判明すると同時に、集落の分布状況が時代と共に移り変わることが明らかになりました。縄文時代の遺構が上賀茂神社の南方に集中してみられるのに対して、弥生時代後期から古墳時代前期の集落群は扇状地全域に遍在して現れます。こ

の時期に、大規模な開発が行なわれたのでしょうか。ところが、古墳時代後期になると現在の上賀茂神社の社家町にほぼ重複するようになります。

また、『山城国風土記』逸文には、次のような賀茂氏の伝承があります。賀茂の社は大和の葛木山（奈良県と大阪府の境）から山代の国の岡田の賀茂（京都府相楽郡加茂町）に至り、こが久我の国（賀茂川上流地方）の北の山基（上賀茂神社の西方、西賀茂の大宮の森）に鎮座したと記されています。このことから、植物園北遺跡は文献に見える賀茂氏とも密接な関係がうかがえる集落跡と推定されています。

すぐき菜畑より拾い上げた土器片をきっかけとして、ともすれば安易になりがちだった立会調査を、市街地での新たな遺跡調査法のひとつとして位置付け、組織的に取り組むことにより、今まで文献史料でしかわからなかった上賀茂の歴史を具体的に知ることができたのです。